

弘前大学と 地域づくり

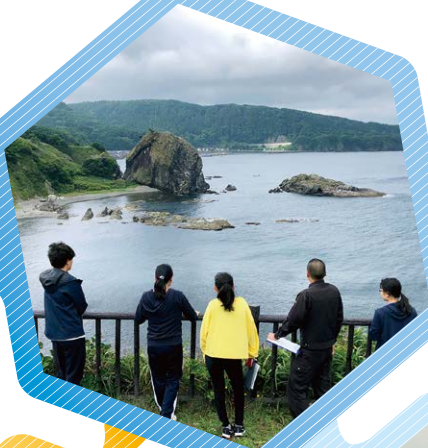
VOL.
11

2019

授業の風景



地域づくり
インターンシップ
(今別町)



学位論文公開審査会



金融機関職員向けセミナー



公開セミナー(紫波町)



CONTENTS

- 1 地域社会研究科とは
- 2 地域社会研究科の“教育”と“研究”
- 3 地域社会研究科の“地域との連携”“地域での実践”



地域社会研究科とは

研究科長あいさつ

弘前大学大学院
地域社会研究科長

北原 啓司



連携は海外にもつながっていく!?

弘前大学大学院地域社会研究科は、地域社会との関係性を強めながら、研究および地域を元気にする活動を実践してきました。現在も、青森県からの地域づくりインターンシップに関わる受託研究や平川市との公共施設活用計画に関わるプロジェクトなど、地域社会研究科のアイデンティティをこれまで以上に発揮し、実績を積み上げています。

また、4年目を迎えた大学院レベルの連続公開講座「地域社会研究科公開セミナー」は、青森県を越え(昨年度は秋田県大館市に進出)、青森市、岩手県紫波町、そしてついに海外(!?)の函館市での開催となりました。それぞれの現場に出向き、地域の方々のお話をじっくり聞くことによって、地域社会研究科ならではの研修の機会を設けてきましたが、これからもさらにパワーアップする形で研究科独自の色を出していきたいと考えています。

さらに、ここで特筆すべきことは、昨年の3月に出版した書籍「ポスト地方創生—大学と地域が組んでどこまでできるか」(弘前大学出版会)が、協定校である台湾の屏東大学からの評価を得たことです。昨年9月には、私と大学院1年生の許文茜さん、そして客員研究員の村上早紀子さん(福島大学准教授)が招待され、学長をはじめとした先生方とお会いし、特別講演をさせていただきました。12月にも再び屏東市にお招きいただき、SDG'sをテーマとする国際シンポジウムで弘前大学の取り組みを講演させていただきました。

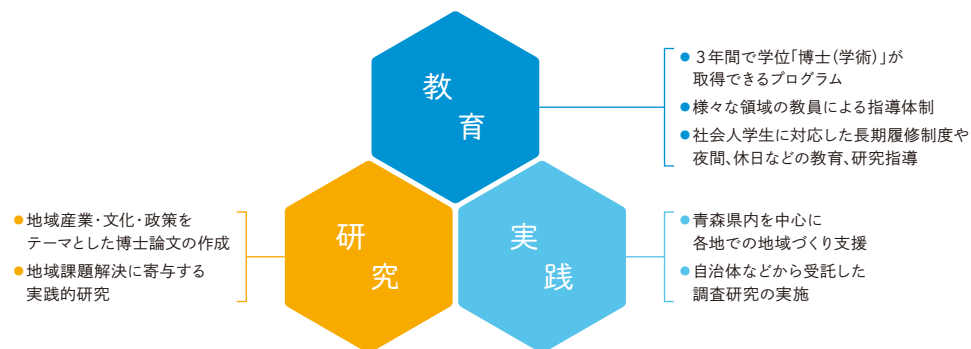
これまでの研究実績が海外からも注目を集め、前述のような機会をいただいたことは大変嬉しく、ここから新しい連携が始まっていく期待感はとても大きいものといえます。実際に、屏東大学からは我々の本を翻訳し、台湾で出版することについても相談を受けており、これまで以上に積極的に内外との連携を推進していくつもりです。

真の地方創生を目指す研究実践活動を地域社会とともに展開していくことこそが、我々のミッションであり、それを全国に、そして海外に向けて発信していく道が我々の前に広がっています。アグレッシブに前進する地域社会研究科の今後の活動に、どうかご期待ください。

高度専門職業人の養成

地域社会研究科は、活力ある地域社会の実現に積極的に貢献することを目的に、地域が抱える特有の課題に具体的に対処する人材を養成し、実行性のある研究成果を生み出す教育研究機関として2002年度に設置された博士後期課程の研究科で地域産業研究・地域文化研究・地域政策研究の3講座から構成されています。

働きながら在籍できる環境を整えていることが特徴で、3年間の学習と研究及び博士論文の作成によって「博士(学術)」の学位を取得できる指導体制となっています。さまざまな分野で活躍中の社会人も多数在籍しており、修了生はそれぞれのフィールドで高度専門職業人として活躍しています。



地域との連携

地域社会との関係性が高い本研究科では、受託研究や受託事業を通じて自治体関係者や地域住民との連携を強化し、研究科教員のみならず、大学院生およびOB・OGとともに地域課題解決にむけた取り組みを実践しています。



地域社会研究科の“教育”と“研究”

教育課程と授業

3年間で学位（博士）が取得できるプログラムで、「必修」、「選択科目」、「演習」、「特別研究」の授業科目による授業、並びに「研究指導」からなる地域政策立案能力志向型の教育過程となっています。

また、社会人学生が多数在籍している本研究科では、社会人学生の実情に応じた夜間、休日などの教育研究指導体制をとっています。

授業紹介①

地域政策形成論（必修）

准教授 土井 良浩

1960年代に市民・住民運動が起こって以来、行政の計画づくりへの市民参加、市民と行政の協働事業の普及など、地域政策は中央集権下で進められるものから地方自治への移行を経て、市民の生活基盤やニーズに基づきつくられ実行されるものに変化しつつあります。この授業では、現代における市民主体の地域政策づくりの考え方や手法を習得することを目標としています。各回の前半部分では、市民主体の地域政策づくりの歴史的展開や市民参画の仕組みなどにかかわる講義を行います。後半部分では、市民が主人公となる地域政策づくりの現場で必要な「ファシリテーション」の考え方や「ワークショップ」の基本的技術習得のための演習を行っています。



演習の様子(ディスカッション)



演習の様子(プレゼンテーション)

授業紹介②

調査方法論（選択科目）

准教授 平井 太郎

互いに研究方法もフィールドも異なる大学院生のみなさんが「地域社会研究」としての共通の方向性を共有できるように、同じフィールドスタディをしたり、同じ方法論をもとにした研究報告をしたりする授業です。

フィールドスタディでは青森県鰺ヶ沢町や七戸町などを、また方法論では『「新しい野の学問」の時代へ』などをとりあげ、それぞれでの学びが博士論文の主要な構成要素に直結していきます。



フィールドスタディの様子

授業紹介③

研究方法論（選択科目）

教授 佐々木 純一郎

研究論文とは、読者に研究内容を説明するものです。博士論文ともなれば、数百ページの分量になる場合もあります。膨大な分量になると、その一部分だけをみれば説明ができていても、全体の最初と最後がうまくつながらないという困った事態が生じることもあります。読者に説明する前に、まず書き手の側が研究内容を明確に整理することが大事です。地域社会研究科には多くの研究分野がありますが、どのような研究分野にも共通する土台が研究方法論です。すでに研究能力に自信がある方でも、初心に戻って学問を究めていただければ幸いです。



Skypeを用いた遠隔授業
(PC画面は仙台市在住の社会人院生)

博士論文題目一覧

※2002年の研究科設置以来、様々な分野の学位論文が提出され、博士(学術)取得者は50名を超えています。

2004年	「ナースিং・リスクマネジメント」の現状分析を通した「看護倫理」の役割に関する研究 --精神科看護の現場に焦点を当てて-- 石崎 智子	看護者の倫理的感受性育成に関する研究 工藤 せい子	農業地域における自然環境管理の研究 --岩木川下流部の オオセッカ繁殖地を事例として-- 竹内 健悟	2005年	少子高齢化社会のホスピスに関する研究 --中国ホスピスへの伝統文化の 導入を焦点に-- 張 長安	青森県の転作水田における アピオスの展開に関する研究 小笠原 康雄	地域振興策としての整備新幹線構想が持つ 問題点と可能性 --東北新幹線・盛岡以北を中心に-- 櫛引 素夫	
2006年	高齢社会移行期における 中国の高齢者教育の現状と課題 --都市部老年大学を中心に-- 程 栄華	日本近世国家と蝦夷地アイヌ社会の関係秩序 --十七世紀後半から十九世紀半ばまでの 紛争と危機を中心に-- 市毛 幹幸	近世～近代における 鉱山と周辺地域に関する研究 土谷 紘子	2007年	俳句の地域性と国際化 --台湾俳壇を中心に-- 沈 美雪	社会教育における 「婦人教育」の衰退とその要因 --男女共同参画及び生涯学習との 関係を中心に-- 一條 敦子	岩手県経済の安定性・定量的研究 ：地方自治体の地域産業政策の展開 野崎 道哉	
2008年	養護教諭の慢性疾患の子どもへの 支援に関する研究 --因果的構造モデルの構築-- 葛西 敦子	2009年	地方社会における一次産品を中心とした 地域ブランドの形成手法に関する研究 --地場産業の活性化を視野に入れた地域ブランドの 価値と形成手法の考察を中心に-- 石原 慎士	Education System Innovation for Regional Economy and Social Development: Revitalization of Lowell, Massachusetts 清 剛治	要支援親子への支援の「つなぎめをつなぐ」 保健師の活動に関する研究 --3歳児健診から就学まで-- 北宮 千秋	リンゴ搾汁残渣の新規用途開発に関する研究 高橋 匡	2010年	土ホリテラーシー促進に寄与する 広報媒体活用の研究 --「土木の絵本」と「土木偉人アニメーション 映像」による展開-- 緒方 英樹
道徳性を育むための「形成」過程の創造と 道徳の時間の位置づけに関する研究 毛内 嘉威	「介護実習」をめぐる 学校と施設の協働関係の構築に関する研究 --福祉系高等学校における 「介護実習」への提言-- 田中 泰恵	2011年	医療通訳の現状と課題に関する研究 --地方都市における医療通訳の必要性和 認定制度の整備に関する提言-- 工藤 規会	高等学校における 「親性準備教育」の在り方に関する研究 --キャリア教育としての「親性準備教育」 実施モデルの提案-- 玉熊 和子	高齢者の健康寿命の延長に関する研究 --地域で暮らす高齢者が主体となった 介護予防運動を推進する方策の提案-- 福岡 裕美子	文部科学省による放課後子ども教室事業の あり方に関する研究 --「子どもの社会教育の中核」としての 視点から-- 猿渡 智衛		
2012年	近代の青森県における企業家ネットワークの研究 --企業家ネットワークを構成する企業と 企業家への視覚化、数値化の視点から-- 南 勉	2013年	現代中国の社会系教科における 経済教育に関する研究 --社会主義市場経済下での経済認識と 経済的価値観の統一的形成-- 徐 小淑	近世北奥地域における造船界の歴史的動向 石山 晃子	特別市制運動の基層と今日的意義 --横浜市の神奈川県からの分離独立史の 検証を通して-- 橋田 誠	明治前期における学制改革の要因研究 西 敏郎		
2014年	東北日本内帯北部の海跡湖における 完新世の地形変化と湖水環境変遷 葛西 未央	知識の習得に重点を置いた道徳教育の研究 --人間行動の自動性に基づく授業開発-- 鍵水 浩	都道府県別の二酸化炭素森林吸収量・排出量 及び産業廃棄物移動量推計等から考察した 環境に対する地方の貢献 藤田 武美	街なかまちづくり活動における プロセス支援の方法論に関する研究 工藤 裕介	「民俗芸能」の「現在」 --生活の中の実践と客体化-- 下田 雄次	自律的動機づけに関する有機的統合理論と 基本的心理的欲望理論の統合的検証 吉崎 聡子		
2015年	成人吃音における合成音声を用いた 在宅吃音訓練法に関する研究 小山内 筆子	2016年	小学校社会科における価値判断の授業開発 --包摂主義を基軸とした価値類型の有効性-- 秋田 真	地域モビリティを育てる 「Co交通」の形成に関する研究 村上 早紀子	青森県産食材の介護食への利用に関する研究 早川 和江	知的障害者スポーツにおける マネジメントモデル構築に関する研究 --若年層ボランティアの活動継続性向上を 企図して-- 大山 祐太	福祉をめぐるニーズと人材供給の 構造的なミスマッチを越えて 熊谷 大輔	
2017年	青森型健康づくり活動の仕組作りの一提案 --りんご栽培との連携-- 前田 健	芸術教育のエコロジカルアプローチ --身ぶり、肌理、コレスポンダンスに着目した 地域芸術実践のデザイン-- 高橋 憲人	知的障害支援施設における 行動コンサルテーションの実践可能性と 職員のバーンアウト・リスク軽減への応用 奈良 理央	地域アート・プロジェクトを生成する --小さな音楽、言葉の実践の場としての 架空哲学音楽カフェ-- 前田 一明	考古学的手法を用いた火山災害史研究 --十和田10世紀噴火と 東北地方北部の社会-- 丸山 浩治	特別支援学校と中学校を架橋する 音楽教育実践デザイン --身体を基盤とした地域芸術実践の導入-- 小枝 洋平		
津波被災地における 住宅移行期の人的支援に関する研究 --石巻市北上地区復興応援隊の事例から-- 中沢 峻	寒冷地における 学校の温熱・空気環境に関する研究 森 菜穂子	企業解散に伴う解雇と金銭補償制度 --真実解散における 真の労働者保護の在り方をめぐって-- 三田村 浩	地域産業研究講座 地域文化研究講座 地域政策研究講座					

- 地域産業研究講座
- 地域文化研究講座
- 地域政策研究講座

修了生からのメッセージ



高橋 未央さん
弘前学院大学
社会福祉学部 助教
2015年3月学位取得

ここで学ぶ意義

本研究科に在学中、私は「津軽平野における完新世の地形環境変遷」の研究を行いました。この解明には、生物学や考古学などの観点からの考察も重要で、様々な先生方と議論や調査に

同行する機会をいただきました。そのため、専門の地理学の研究にも役立つことができたように思います。これは、大学の規模が丁度よいことと、様々な専門分野の先生方が在籍する恵まれた教育環境が揃っていたからだと思います。同級生には社会人の方もいて多様性があることも刺激となりました。ここで学べたことは私の大きな財産です。

人口減少に対応した地域づくり

2014年から青森県とともに、人口減少が心配される集落の地域づくりに取り組みながら研究をおこなっています。研究科の教員・院生・客員研究員が、県内各地域で働き暮らす人々や自治体と協働し、①人口動向の調査や地域の資源・課題の発掘、②それらを元にした地域活性化の取り組みや組織の創出、③専門家派遣による高度な専門的支援を実施してきました。2016年以降は、地域に大学生が滞在して様々な体験活動や地元の方々との交流をおこなった上で地域課題解決策を提案する「地域づくりインターンシップ」の運営に携わっています。昨年度まで6地区、今年度は下記2地区で実施しました。

今別町との取り組み

今別町大川平地区は人口471人、238世帯（2018/4/1現在）の農業集落で、江戸期からの伝統芸能「荒馬」で広く知られています。荒馬保存会が中心となり、荒馬を後世に残そうと全国に向かい披露し、毎年8月初旬の荒馬まつりには、東京、名古屋、京都から学生が多数訪れます。今年度インターンシップの受入地域に採択され、研究科の教員・研究員が企画・運営を支援しました。インターンシップ実施前、地域の現在や未来を語り合う場を設け、学生に伝えるべき住民意見を引き出しつつ、受け入れの基盤づくりをおこないました。8/9～15の7日間、東京・山形・青森から4名の学生が地区に滞在し、地域課題である、農業や荒馬の担い手育成の企画づくりに取り組みました。着想を得るため、「一球入魂かぼちゃ」のツヤ出し、ぶどうの収穫、「いまべつ牛」の肥育などの農の体験に加え、荒馬の踊りの中でも比較的易しい“太刀振”のパートを練習して、荒馬の地区内運行の中で踊る体験もしました。また、保存会のメンバー、料理上手のお母さんや地元の子どもたちと交流する時間をとり、地域の現状を理解し今後は展望する手がかりを集めました。企画づくりは各自で行うこととし、半日毎に互いの提案を共有・議論して洗練させました。町・県の職員が話し合いに加わってくれたおかげで、学生は提案内容を深めることができました。

インターンシップの集大成となる報告会には30名の地元住民が集い、提案に耳を傾けました。①荒馬まつり時期に来る大学生を長期滞在可能にする環境づくり、②「いまべつ牛御膳」の販売提供を通じた農業の活性化、③親が青森に縁のある小学生対象の田舎暮らし＆民泊体験、④農業を学ぶ高校生・大学生を対象としたインターンシップ、⑤自由研究や「総合」の授業による地元小学生の農業体験、⑥荒馬と農業のPR動画の制作とSNSなどによる発信が提案として出されました。短期間で収集できた情報を基にした発展途上の提案ではあったものの、地元の方々からは高い評価を得ることができました。これらの提案を受け、今別町では、大川平地区や弘前大学と連携しつつ、農業体験を通じた農の活性化、農業や町の魅力の情報発信、空き家の活用などを施策化するための検討を始めています。



「一球入魂かぼちゃ」のツヤ出し作業



荒馬の運行への参加



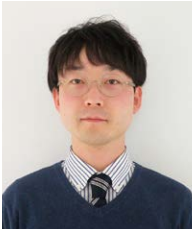
報告会での発表

自治体職員の声

地域づくりのパートナーとして

地域社会研究科の先生方には、日頃、地域づくりに関する知見の提供等でお世話になっています。平成28年度からは、研究科のご協力のもと、大学生を県内の集落に派遣する「地域づくりインターンシップ」を実施しています。先生方には、受入地域と大学生をつなぐコーディネーターとして、あるいは活動のサポーターとしてご尽力いただいているところです。

この事業を通して、これまで県内外のさまざまな大学生が、地域を学び、体験するために本県を訪れました。これからも多様な主体が地域に関わる環境をつくっていくため、引き続き地域づくりのパートナーとして、連携させていただければと考えています。



青森県企画政策部
地域活力振興課 主事
和山 大輔さん

五戸町との取り組み

青森県五戸町の南部に豊間内地区は位置しています。地区内には3つの自治会（豊間内、志戸岸、岩ノ脇）があり、人口777人、世帯数290世帯からなる「豊間内コミュニティ実行委員会」が活動しています。約25年前から地域の花植活動、虫送り行事といったコミュニティ活動に力を入れています。しかし、少子高齢化や豊間内小学校の閉校などにより、地域の子どもたちや次世代を担う若者が主体的に関わり活動できる場が減少しています。一方で、豊間内コミュニティ市といった新たな活動を始めたり、2018年6月には旧豊間内小学校を「ごのへ郷土館」として改装オープンさせ、これを機会に新たな地域づくりのモデルケースを導入し、より効果的に持続発展可能な地域となるよう考えています。

2019年8月に「地域づくりインターンシップ」として大学生が豊間内に滞在することになりました。それに先立つ6月21日夜、豊間内地区コミュニティセンターにおいて、地域づくりインターンシップの概要説明とともに、「地域の未来について、みんなで考えよう」というテーマでワークショップを開催しました。当日は地域住民の皆さん54名、五戸町役場4名、青森県庁2名、そして弘前大学2名の計62名が参加して盛況でした。ワークショップでは6つのチームに分かれて「豊間内のいいところ」や「学生と一緒にやってみたいこと」などについて活発に議論がなされました。

2019年8月22～28日の一週間、県内外の大学生6名がインターンシップとして豊間内に滞在しました。地域の伝統文化である製織り体験、郷土料理の体験そして豊間内音頭の練習が行われ、中日の25日には豊間内コミュニティ市への参加後、地域の神社の例大祭に参加し、豊間内音頭を披露しました。報告会では、「郷土館にあるカフェの利用拡大こそが様々な効果を生む」と提言し、会場の住民の皆さんの多くが旧豊間内小に因んだカフェの愛称を望んでいることを共有できました。



住民のワークショップ



例大祭で踊る学生たち



カフェの説明

地域づくりインターンシップ活用検討会

2016年度以降、各地域のインターンシップ終了後に実施報告会をおこなってきましたが、昨年度より新規のインターンシップ受入地域の発掘を目的としたワークショップを並行開催し、研究科教員がそのプログラム企画と当日の運営に携わっています。今年度は、「地域づくりインターンシップ活用検討会」と題して12月にアスパムで実施、学生10名を含む50名以上の参加がありました。参加者は実施地域の成果報告を聴き、インターンの企画づくりの考え方やノウハウについてのレクチャーを受けた後、グループに分かれ、インターンの企画の骨格となる「学生募集要項」と「一週間のスケジュール表」の制作に取り組みました。中には、直ちに実施できそうな完成度の高い企画も生み出されました。



実施成果報告



ワークシートを用いた企画づくり



企画の発表

書籍出版による研究成果の公表

「ポスト地方創生 大学と地域が組んでどこまでできるか」

本書は研究科が2014年度以降、青森県から委託を受けてきた研究の成果をまとめたものです。他部局の教員を含む様々な分野の教員が、持続可能な地域の未来を拓くためのポイントを引き出しています。普通に地域で暮らす皆さんが、まず、中央からのお仕着せでない将来像を再確認すること、大学など外部者と関わりながら自分たちのペースや矜持を自覚することが欠かせません。地域の未来に対して何となく不安を感じる、何かやりたいと考えている方々に必読の書です。



編著者：平井大郎
著 者：北原啓司 藤崎浩幸
佐々木純一郎
土井良浩 白石壮一郎
杉山祐子 近藤史
発 行：弘前出版会

公開セミナーの開催

大学院レベルの教育研究分野の学びの機会を提供する事を目的とし、地域の社会人を対象とした公開セミナーを2016年度より実施しています。地域課題とその解決の取り組みをテーマに講義を行い、県内外へも実施会場を広げて行くことで、毎年多くの社会人が参加しています。更には、本セミナー受講生が研究科へ入学、あるいは聴講生となるなど、新たなつながりが生まれ、大変充実した意義のある取り組みとなっています。

青森市での開催

「自治体政策の課題と展望」をテーマに掲げ、本学教員3名がそれぞれの視点から講義を行いました。地域ブランドへ、より高い価値を与えるための取り組み等について説明を受け、実際に地域の特産品のブランド化を想定した取り組みについて考え、意見を交えました。「廃棄されることの多いホタテの白子に含まれる機能性成分を何かに使えないか」「黄色いリンゴのブランド化について考えてはどうか」等の意見が集まりました。最後に、人口減少や財政状況に課題を抱える地域へ人を惹きつけるために、自治体や行政サービスに何が出来るか、その可能性を探り、公開セミナーを締めくくりました。



金目准教授の講義

青森市公開セミナー「自治体政策の課題と展望」		開催日：令和元年11月3日
講義① 佐々木 純一郎(地域社会研究科・教授)	自治体中小企業政策の焦点 ー地域商社の可能性ー	
講義② 内 山 大 史(地域社会研究科・教授)	地域産業振興の取組み ー食産業における高付加価値化ー	
講義③ 金 目 哲 郎(人文社会科学部・准教授)	地域活性化に向けた自治体財政の可能性と課題	

北海道函館市での開催

「つながりをデザインする」をテーマに、学外からも講師を迎え、2日間にわたり講義及び“まちあるき”を実施しました。「小さな地域から作るつながり」、「地域に応じた外とのつながり方」、「共感の連鎖による環境や社会の持続したつながり」、「失われつつある人々のつながりの再構築」など様々な角度から読み解く「つながり」について4つの講義をおこないました。また、函館市電を貸切り、函館市職員のガイドによる函館西部地区の“まちあるき”を実施し、東北以北最古の手動式エレベーターの体験搭乗や金森赤レンガ倉庫群の散策など、函館の歴史と文化を体感しました。



函館市内のまちあるき

北海道函館市公開セミナー「つながりをデザインする」		開催日：令和元年11月16日～17日
講義① 北 原 啓 司(地域社会研究科長・教授)	海越を越えたつながりのデザインとは	
講義② 池ノ上 真 一(札幌国際大学・教授)	人口減少社会のつながりのデザインとは	
講義③ 平 井 太 郎(地域社会研究科・准教授)	時間のつながりのデザイン ーSDGsにむかうプロセスとはー	
講義④ 土 井 良 浩(地域社会研究科・准教授)	人々のつながりのデザイン ー“つながり”を生み出す場所のあり方ー	

岩手県紫波町での開催

「真の公民連携を科学する」をテーマに、講義と施設見学会を開催しました。行政と地域住民双方向が主体となって行動を起こすことで、魅力ある豊かな地域が作られ町や人が育っていく取り組みについて、4名の講師がそれぞれの視点から講義を行いました。また、紫波町職員のガイドにより、日常的に集客・収益を確保する仕組みを確立したオガール紫波の施設を見学し、民間主体の経営を成功に導いたプロセスについて解説していただきました。当日は、海外からも視察団が訪れていて、世界から注目されている取り組みについて深く知ることができ、参加者にとって非常に有意義な2日間となりました。



土井准教授の講義

岩手県紫波町公開セミナー「真の公民連携を科学する」		開催日：令和元年11月23日～24日
講義① 北 原 啓 司(地域社会研究科長・教授)	「公」をデザインする!?	
講義② 鎌 田 千 市(紫波町企画総務部企画課長)	紫波町の公民連携	
講義③ 平 井 太 郎(地域社会研究科・准教授)	SDGsにむかうプロセスとは	
講義④ 土 井 良 浩(地域社会研究科・准教授)	市民組織による公的事業 ー公的空間の管理運営や利活用に着目してー	

弘前大学と平川市の連携調査研究事業

本学と包括連携協定を結んでいる平川市において、2016年度から調査研究事業を実施しています。これまで取り組んでいた同市碓ヶ関地区の活性化と地域活動の担い手となる若者育成支援が昨年度末で一段落し、今年度から市役所本庁舎の建て替えによる機能移転に伴い余剰スペースが生まれる尾上分庁舎（旧尾上町役場）の利活用計画づくりのプロジェクトがスタートし、2名の教員がそのマネジメントに携わっています。

初年度である今年度は、庁内の様々な部署から集めた若手職員10名をメンバーとするワーキング（庁内検討会議）を立ち上げ、今後のプロジェクトの推進基盤づくりに取り組みました。当初から本計画は市民参加による策定が予定されていましたが、オープン後に市民にどのように関わってほしいか、そのためにはいかなるプロセスで進めるべきかを考える必要があり、ワークショップ、講演、視察を交えた7回の会議を実施しました。その中でまず、尾上地域や平川市全域を俯瞰する視座から「新庁舎はどんな場所であつたらよいか」を議論したり、「これからプランを練る上で必要な情報や作業の洗い出し」をおこなったりしました。9月には、公共施設として魅力的な市民の集いの場所となっている「hacchi／マチニワ」（八戸市）や、一連の公民連携の取り組みで全国的に知られる「オガール紫波」（岩手県紫波町）に視察に向かいました。市民や民間企業・団体との連携・協働の重要性が再確認され、施設構想前から市民参加を実践していた八戸の取り組み経緯をより深く学んだり、庁舎＝公有財産に民間活力を導入する場合に考慮すべき事項や参照すべき先進的事例を研究したりする機会も設けました。

来年度は、市民が足繁く通いとなる、持続可能な運営がなされる場所の構築方法に関する調査研究を継続しつつ、いよいよ市民参加のプロセスを開始する予定です。



平川市役所尾上分庁舎



ワーキングの様子



hacchi(八戸市)の視察

金融機関向けセミナー

金融機関等職員に対する高度専門人材育成事業を開催しています。この事業は、本学が掲げる、「戦略1：アグリ・ライフ・グリーン分野における地域の特性・資源を活かしたイノベーション創出・人材育成」の中核事業として、当研究科教員が主導しているものです。研究成果を地域に還元する仕組みとして、コーディネーターの活用が重要ですが、その数は十分ではありません。地域企業等とのつながりが強い金融機関職員を対象としており、4日間に渡り、講義、企業見学、演習、発表などを経験する提案型セミナーで、昨年度から31名の受講がありました。NPO法人「ひろだいリサーチ」内に立ち上げた「ひろだい地域商社研究会」との連携による実践の仕組みについても検討していきます。

NPO ひろだいリサーチ

ひろだいリサーチは、地域社会研究科の教員や大学院生そして地域への思いを持った人たちが創る団体です。自治体などの委託等で一一人の研究分野や興味のある活動へ参画することにより持続可能な地域づくりに貢献しています。2019年度は、南部町での住民主体の地域づくりのための土台づくり、持続のための地域商社研究会の立ち上げ、青森県民生協での移動販売車による買物弱者支援調査、平内町での青森大学生の地域貢献支援等を行いました。1人ではできなかったことも皆で力を合わせればできる。NPO活動を通じて地域で頑張る皆さんと弘前大学を通じて集った皆さんとで創り上げています。



住民が地域交流のために開催した「三戸駅前・小波田なべ食堂」
男たちで作ったせんべい汁に舌鼓。
今後も定期的に開催予定。
(南部町)

弘前大学大学院地域社会研究科の
詳細はHPからご確認いただけます。

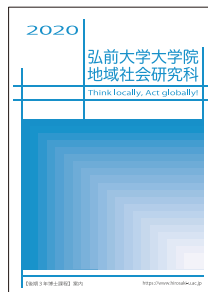
- ☐ 講座について
- ☐ 授業内容・シラバス
- ☐ 学位論文関係
- ☐ 担当教員一覧
- ☐ 入試・入学情報
- ☐ 研究紀要等刊行物



地域社会研究科のHPは
こちらからどうぞ >>



地域社会研究科案内(PDF)を
ダウンロードいただけます。



ダウンロードは
こちらからどうぞ >>



お問い合わせ

- ☐ 地域社会研究科については 弘前大学学務部教務課 まで ☎0172-39-3960
- ☐ 入試については 弘前大学学務部入試課 まで ☎0172-39-3973 / 3193

弘前大学大学院 地域社会研究科 ニュースレター

弘前大学と地域づくり 第11号

発行日 | 2020年3月31日

編 著 | 土井 良浩

著 者 | 北原 啓司、佐々木 純一郎、内山 大史、平井 太郎、木田 祥子

発 行 | 弘前大学大学院地域社会研究科
036-8560 青森県弘前市文京町1番地
<https://www.hirosaki-u.ac.jp/Tlag/>